



## 会心の予選10位も、接触・無念のストップで29位

**予選 10位** /31 台中 2'01.358 (TOP +0.843) ▶ 9月6日 (土) 12:20 開始

T2 FACTORYは、2019年の開設時より「TOYOTA GAZOO Racing GR86/BRZ Cup」に継続参戦しており、社員で専属チーフエンジニアの大橋孝行が組み上げた56号車「栃木トヨタT2FACTORY BS GR86」に、社員ドライバーの鶴賀義幸が搭乗しています。また、毎戦ごとに各店舗からエンジニア2人がメカニックとして帯同し、レースを通じて技術を磨いています。

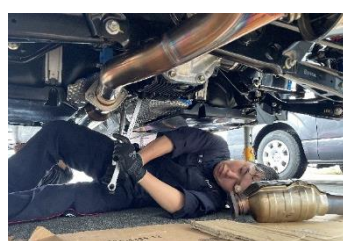
9月6～7日に、シリーズ第5戦が「富士スピードウェイ」(以下、「富士」)で開催されました。今大会からマシンを新車に入れ替え、レースに臨んでいます。地元のKILALA美術学院の卒業生が描いた新マシンのデザインは、「県鳥・オオルリ」をイメージさせる青を基調としたスピード感のあるデザインで、その走りにも期待がかけられました。

予選・決勝がある6～7日は晴れ予報である一方、練習走行のある4～5日は強い雨でドライ路面での練習が難しい状況でしたが、当チームは新車の様子見もかねて3日から走行したため、ドライ路面でのデータを蓄積することができました。また、練習走行では旧車両に比べ新車両の性能が向上していることを確認することができました。5日は予報通り激しい雨で、午後の専有走行は中止となる予定でしたが、にわか雨が止み路面が乾いたため、急遽走行し有用な走行データを収集し、予選に備えることができました。

6日は、台風一過の透き通るような青空の下、秋らしい気候ではじまる1日でした。ただし日差しがあるものの、流れてきた雲間に隠れて気温がやや下がる瞬間もあり、状況は刻々と変化していました。

午前中に行われた他クラスの予選では、タイムが伸び悩む車両が多く、前日までの雨でコースのコンディションが普段とは異なっており、ドライビングを合わせきれない可能性があると感じました。加えて、このレースで使用しているタイヤの性能のピークは1周のみであるため、予測が難しい予選となりました。

開始時間となり、まず1台がコースインしましたが、それ以外の全選手は静観しました。当チームは後半に一斉に走るとみられる集団を避けるため、残り9分の時点で2台目となるコースイン・単独でのアタックを試み、ミスなく好タイムを計測することができました。ピットへ戻ると、残り4分でコース上に車両が殺到しました。それらの計測がすすむごとに暫定順位は徐々に下がっていきましたが、多くのチームが難しいコンディションに苦戦していました。1台がスピン・コースアウトしたためオフィシャルより黄旗が掲示され、その区間で減速義務が発生し、それ以降コース上はベストタイムを計測できなくなりました。結果は11位でしたが、タイム抹消による繰り上がりがあったため、決勝レースは5列目内側の10位スタートとなりました。



7日(日)の決勝レースは、雲に覆われてやや過ごしやすいく気候で行われました。気温が上がらず、事前に想定していたほどタイヤ銘柄や空気圧セッティングによる優劣が出ないことが予想され、レース展開の難局化が予想されました。10週の決勝レースが開始されると、やはりスタート後の第1コーナーから激しいバトルが勃発しました。コース幅が広い富士は、全区間に渡って横に並びやすく、混乱のサバイバルレースとなりやすいサーキットです。位置取りが悪く前に詰まり、1周目の最終コーナーまでに複数台にオーバーテイクを許しましたが、集団に続きチャンスを窺いました。7周目、失速した車両をかわし、前走車に続いてダンロップ(第10)コーナーへ進入するところで、後方でブレーキング勝負をしていた車両が止まり切れずインに滑り込み、当チームは強い接触を受けスピンを喫してしまいました。混戦のなかコース上に停止したため、以降の回避行動をとった複数台が絡む多重アクシデントとなってしまいました。幸いドライバーの命に関わる大事には至りませんでした。車両はレース続行不能となる大きな損傷を受けてしまいました。自走でピットに戻り、7周を走破したためレース結果は完走扱いの29位となりました。新車の仕上がりは順調で、10位以上のポイント獲得を狙える好機でしたが、残念な幕切れでレースを終えることになりました。

今回のレースには、参加経験のあるエンジニアと初参加のエンジニアの計2名が参加し、ミスなくメンテナンス作業を行いました。雨が降り出す前日に、トランスミッションの交換とブレーキシステムの交換作業を行い、リジッドラックを使った作業を経験してもらうことができました。エンジニアからは「レースは見たことがあったが、楽しみながら現場を知れて良かった」と話が出て、充実した活動にしてもらえたようで何よりでした。災害級の強い雨に打たれ、整備場所はかなり危険な状態にもなりましたが、団結して災難をしのぎ、全力でレースを戦うことができました。

今回の新車両は、そのデザインと走行性能に現地で多くの関係者からお褒めの言葉をいただき、その注目度を感じることができました。富士スピードウェイに映えた美しい姿をまた取り戻すべく、修復し次戦に向けて準備を整えてまいります。

今大会の参戦に際し、皆さまの温かいご声援をいただき誠にありがとうございました。今後とも、ご期待いただきますよう、よろしくお願い申し上げます。



## ドライバー鶴賀のコメント

ここ数戦を経て当チームに流れが来ていることを感じ、今回こそ好結果に繋げたいと思っていました。以前から頭の片隅にある富士への苦手意識などすっかり消え去るほど、チームの努力によって日々大きく改善し、予選では見違えるようなパフォーマンスの向上をお見せすることができたと思います。レースである以上、接触も仕方ないとお声をかけていただきましたが、今回ほどの大きなダメージは自分の判断によって防げたと思っており、反省しています。多くの方に動いていただき、次戦までに車両の修理が完了する見込みです。結果でお返しできるよう、そして以後応援してくださる方々を悲しませることがないように、気を引き締めて臨みます。ぜひまた応援いただけますと幸いです。

